

義太夫

義太夫協会会報
第44号

1989年1月1日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2 新橋演舞場B2
TEL (541) 5471

企画に計画性を

— 年頭の辞に代えて —

義太夫協会監事 景山正隆

新しい年を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

本来なら田辺会長に年頭の辞を頂戴すべきところですが、会長がご入院のため執筆をお願いできないことになりましたので、私が代って、協会の希望的な展望を記し年頭の辞に代えさせていただきます。

昨年は、昭和五十年以来十三年ぶりに文化庁主催の芸術祭に参加したことが、最も特筆される協会の足跡となったといってもよいでしょう。日頃になく大勢の聴衆で埋められた当日の会場本牧亭の雰囲気は、月例公演とは一味違った緊張感につつまれ、私の見るかぎり(聴くかぎり)、公演の成果も、受賞こそ

逸しましたが、けっして受賞の対象となつた他の分野の演奏に引けをとるものではなかったと確信しています。

いままら受賞から外れた理由を云々するつもりはないのですが、あえて一つだけ書かせていただくなら、芸術祭参加の意志決定が参加申込み期日間際という、きわめて切迫した時期であったところに一つの問題があったように思われることです。

ものごとには、計画性ということが必要です。昨年の芸術祭参加が単なる思いつきであったわけではありませんが、結果的には、そう見られてもやむを得ないような経緯もあったと思います。芸術祭に参加することは、義

太夫節の振興のために大いに意義のあることですから、協会として今後ますます積極的に取り組むべき課題かと思いますが、その成果を期するためには、何といっても芸術性の高い企画とそれに伴う厳しい精進が必要です。それにはやはり機熟するのを待つ時間がかねなければなりません。今年も続けて参加の方向で取り組むとすれば、今からその計画を練り始めてもけっして早過ぎるということはないでしょう。

ところで、私は、その企画性という点については芸術祭参加の件だけにとどまらないと思うのです。協会の活動全般について、そのあたりをあらためて洗いなおしてみるべき時期に直面しているように思われます。

毎月二日、年間二十四回の定期公演を保持している邦楽の団体は、わが協会の他にはないといってもよいでしょう。それだけ、わが協会にとって毎月の二十日と二十一日の両日は、たいへん重い意味をもっている筈です。その重さが、馴れのためにもすると忘れられがちになっているようにも思われるのですが、いかがでしょうか。(次頁へ)



(前頁より)

定例の公演について、近年とかくの批判の声が聞かれるようになってきていることは、皆さんもすでにご承知の通りです。私は、毎月の公演内容が必ずしもマンネリ化しているとは思いませんが、企画の内容にいささか計画性が欠けており、義太夫節の時代を超えた魅力在世間にアピールする工夫が足りないように思われるのです。

例えば「教師のための義太夫講習会」などは開催の回数と月が決まっているのですから少なくとも一年間の企画が前年度の内から立てられて当然でしょう。数年先には、新しい学習指導要領によって、小中の学校教育に邦楽が従来よりも積極的に取り上げられることになったようですが、そのためには、指導に携わる先生方の邦楽に対する関心と認識をさらに深めてもらうことが必要です。その点でも本牧亭公演をもつ協会の役割は大きな意義を担っており、それにふさわしい具体的な対応策が考えられなければなりません。

ひとつ今年は、昨年の芸術祭参加をいい意味での踏台とし、定例公演や教師のための講習会の内容を、公演部や普及部まかせにしないで、協会員一同(相談役等も含めて)の衆知を集めることにより、より計画的な魅力のある企画を立てて、飛躍の年にしようではありませんか。

(田辺会長は十二月十七日に無事退院いたしましたので御安心下さい。 編集部)

昔の巡

本年もよろしくお願い申し上げます。前回は私事で湿っぽかったので、春らしく明るいお話をいたしましょう。

昔は浄瑠璃の巡業が多く有りました。私の父(初代才造)も、一年の内随分留守の事がありました。例をひろってみますと、七十五年前大正二年七月、伊達太夫一座が北海道へ巡業致しました時の顔ぶれは、早苗太夫・七五三太夫が語りました。

次に

- 旭太夫(鏡太夫) 二十四才
- 吉童(吉二郎) 十六才
- 英太夫(若太夫) 二十四才
- 吉鳥(誉太夫) 十七才
- 米太夫(先代) 二十七才
- 小猿(猿蔵) 二十二才
- 鍛太夫 三十六才
- 団六(寛治) 二十五才
- 伊達太夫(土佐太夫) 五十一才
- 徳太郎(四世清六) 二十五才

右の一座で大入満員でした。

中でも鍛太夫が出ると割れるような拍手で、まるで小錦か寺尾が土俵へ上った様な騒ぎです。これは其の当時流行の蓄音機の音盤(レ

業

相談役 豊 澤 猿三郎

コード)に鍛太夫・団六で数十種吹込みましたのが、今で申すヒットしまして日本中へ売れ渡りましたので、此の太夫が日本一の太夫だと思っただ人も有ったのでしよう。兎に角体は百キロ近くあり、声は二階の後ろ迄(マイクは其の頃有りません)響き渡り、声柄もたまらない語呂が有るので、何も知らない人は真打と思うのも無理ありません。本人も「此の客は皆わしの義太夫聴きに來とるんや」と豪語します。一座の皆々は面白くありません。其の内大変な事が起きました。伊達太夫の師匠、大隅太夫の逝去です。伊達太夫は其の夜、直ちに大阪へ向かいました。鍛太夫は自分の力を見せるのは此の時と、真打と成って蓋をあげたが場内はガラガラ。翌日は忠七の掛合をつけても駄目、千本の道行、これでも駄目。興行を中止と言う事に成ったところへ大阪から電報で、『今夜大阪を出発する、準備せよ』との嬉しい便りです。早速旭太夫が東西屋(チンドンヤ)、吉鳥・吉童の二人が「野崎村」や「柳のきやり」等を合奏で街中を宣伝。交差点では旭太夫が、伊達太夫の返り初日の宣伝を述べます。愈々当日です。会劇場の前は昼頃からお客様の行列です。会

場は大満員です。その後の鍛太夫は大へんおとなしく成りましたそうです。

案屋敷を二ツ三ツ書きましよう。

団六は食事以外は三味線を弾きどうしです。徳太郎は夜食を済ますと白餅に黒の五ツ紋の羽織、まるで現代の福岡貢で廓通い。当時五ツ紋の女郎買いと、流行語と成りました。英太夫は朝食が終ると、二本の足の他にもう一本の足に鉄瓶を提げ、女中部屋を訪問し、キヤッキヤと驚かす趣味が有ります。稚内はオホーツク海の前の旅館で、朝晩寒いのに全裸に成り、鉄瓶が無かったので粉炭の一ぱい入った炭取りをぶら下げ

へ差足拔足うかがい寄り。聞ゆる物音心得たりと、ぐっと開けば女中は居らず、宿帳調べの二人巡査。はっと驚き取り落す、炭取り転がり二人の中。忽ち黒煙濛々と、寸先見へぬ其の中で、眼ばかりギョロギョロ二人の巡査、サアベル握ってすつくと立つ。英見るより仰天し、「ヤ、ヤ、こはお巡りか恐ろしや。」さすがの英ひよろひよろ、只涙ぐむばかりなり。騒ぎ聞きつけ宿屋の親父、女中も共に走り来る。女房粉炭にむせ返り。「これ見なされ英さん、お風呂に行く時くれぐれも、自慢で出すなど言うたのに。事もあろうに炭取りを、巡査にかぶすは何事ぞいのう。知らぬ事とは言いながら、二人のあの顔見るにつけ、せめてパンツをはいてのち、土瓶でもつるしたら、罰金ぐらいで済むものを、警察行きとは情なや。勘弁してたもおまわりさん、拝

むわいの」と手を合せ、風呂場の鏡泡だらけ、巡査を洗うシャボンなり

此の騒ぎの為、土地の親分を頼んでもらひ下り、旅館のたんつ(ジュータン)は洗ひも修繕も出来ず宿の前のオホーツク海へ流し、炭取りはワイセツ物チレンツの証拠物件として警察へ取り上げ。二人の巡査の白の官服の西洋洗濯代と大変な赤字でした。

先代の米太夫が、うまい事を言いました。「アホーツク海の大チン事件」と。

お屠蘇のせい、チヨイと筆が走りまして失礼いたしました。此の度も敬称を略させていただきます。ご退屈様で。

鶴澤駒登久師に勲五等

昨春秋、女流義太夫三味線の最古参・鶴澤駒登久理事が勲五等瑞宝章を受賞。1月21日、本牧亭における叙勲記念演奏会では、永年の相三味線・駒龍師と「鮎屋」を演奏いたします。

第四回豊澤仙廣賞 芸団協助成新人奨励賞

六十三年度

受賞者内定

昨春秋の理事会にて、63年度豊澤仙廣賞に竹本素丸(素八門下)、63年度芸団協助成新人奨励賞に竹本越京(越道門下)が内定いたしました。3月の本牧公演席上にて披露の予定です。(後日詳報)

小言は言うべし酒は買うべし

— 女義後援会63年度途中経過 —

池田 弘 一様	一〇〇,〇〇〇円
高野 俊 雄 様	一二九,五〇〇円
竹本朝重御連中様有志	五〇,〇〇〇円
竹本駒之助御連中様有志	九〇,〇〇〇円
松井 一 男 様	三〇,〇〇〇円
渡辺 兼 佐 様	三〇,〇〇〇円

(63年12月現在)

89都民芸術フェスティバル 第19回邦楽演奏会

*一九八九年三月五日(日)
*第一生命ホール
*東京都助成による特別料金一、五〇〇円
邦楽連合会(義太夫・清元・古曲・新内・常磐津・長唄・三曲)主催の年一回の邦楽演奏会。義太夫は左の通りです。

昼の部 天網島時雨炬燵 紙治内の段

浄瑠璃 竹本越道 三味線 鶴澤駒登久
夜の部 生写朝顔話 宿屋の段

深雪 竹本 綾一 駒沢 竹本 朝重
岩代 竹本駒龍 徳右衛門 竹本駒之助
三味線 鶴澤重輝 琴 鶴澤 悠美

(後日詳報)

天地会



緊張の芸術祭参加公演後に行なわれた「若手による天地会」はいかがでしたでしょうか。舞台から降りたばかり、汗だくの出演者に一言づつ感想を聞きました。(出演順)

豊澤 多美子

♥一年に一回くらいやってもいいな

竹本 土佐恵

♥うつむいたまま顔が上げられず冷汗が右目に入ってきてぬぐうこともできず、のどがカラカラになってしまいました。大変長く感じました。(お稽古の時はもの足りなく思ったのに)。

鶴澤 津賀寿

♥口がカラカラになりました。

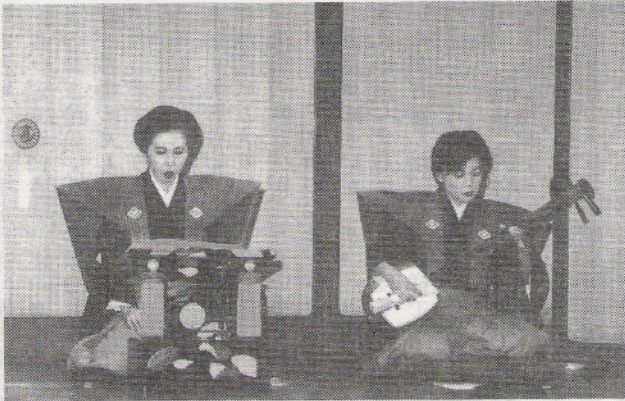
竹本 越 若

♥手がふるえてどうにもなりませんし、全部途中で忘れてしまって、こんな恐ろしい思いは二度としたくない。

♥やはり天地会といっても何回か合わせないとちょっと苦しいと思います。

鶴澤 駒治
竹本 素丸

♥手がまだこわばって字が書きにくい状態です。どうせスタートラインが皆違うのだから、一番下手なのは最初からわかっていたので、開き直っておりましたから……でも三味線を借りて来てからわずか一ヶ月半ばかりでよく音が出たと内心感心しております。



結構サマになっています。病みつきになりそう?
(撮影 佐藤公夫)

♥自分の出までに舞台に出ているとだんだんあがって、手が震えるやら汗が出るやら、皆様より短くしていただいたのに、ちゃんとひけなくてどうしましょう。三味線弾きさんで大変なのです。

鶴澤 悠美

♥またやりたーい!!でも、お弁当・お菓子つきで!!こんどは鳴門の子役でよろしくお願ひします。

竹本 土佐子

♥勉強になります。もう何回か合わせていただけたらと思います。

野澤 輝雅

♥教室以来○年ぶりの語りで大変緊張しました。でもよい経験でした。

(竹本 満改め) 竹本 越京

♥掛け声かけられて大満足!!

竹本 越孝

♥一人で弾いているとうまいんだけどナー!。自らの度胸のよさに感心しています。

豊澤 幸治

♥もっと人物を出したいと思えばままならず……三味線もむつかしいけれど語りもむつかしいですね。

竹本 綾一

♥手がふるえて仕方ありませんでした。語る時もそうですが、手は動かさないのでマアよいのですが、お三味線弾きさんは大変です。ねえ!

東西交流会

かねてより希望されていた「東西若手交流会」が、昨年十月に実現、はるばる大阪より参加の六人からハガキで感想を寄せて貰いました。住道門下の住蝶、寛八門下の寛輔・寛也（ふたりとも東京の義太夫教室出身）、雛代門下の雛子、友恵門下の友香、みな本牧亭には初お目見得、住友門下（孫の）友由貴は四年ぶり、二度目の出演でした。（五十音順）

◆ 竹本 住蝶

先日はありがとうございます。大阪と東京共に良きライブルとしてこれからも互いに勉強しあって、あのような公演が又できる事を楽しみにしております。会場も快く語れる広さで、お客様も肩をはずらずに聞いていただけそうな所で、大阪にもあればよろしいのにと、うらやましく思いました。私達もがんばりますのでよろしくお願い致します。

◆ 竹本 友香

未熟な私によい修業の場を与えて頂きありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。



◆ 竹本 友由貴

東京大阪合同の舞台を大変嬉しく又、反面

緊張の思い一杯で語らせて頂きました。この機会をきっかけに大阪と東京の若手グループの交流を深め良きライブルとして受け止め、お互い研鑽し合って技芸の向上にはげむ事が出来ればと思いつきましました。今後共よろしく御指導下さいませ。



◆ 竹本 雛子

先日は大変お世話になりました。緊張もしておりましたが、大変勉強になりました。初めて本牧亭に出演させて頂き、緊がたく思っております。今後共よろしくお願ひ致します。あまり皆様方とお話しできませんでしたが、次回お目にかかれる時を楽しみにしております。



◆ 鶴澤 寛也

先日はお世話になりました。合同の機会が又ございましたら是非参加させて頂きたいと思っております。それから、お客様より野崎のツレに何人もでるのはおかしいのではと云われたのですが……



◆ 鶴澤 寛輔

長い間、東京を離れてましたので本牧亭はとてもなつかしく……そのわりにはなさけない三味線を聞かせてしまいました。大阪も少ないメンバーでかけ合いなど演目に近づいていけるように頑張りたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

義太夫教室OB会

出演希望者募集中

◎一九八九年二月十八日(土)

◎一時開演(予定) ◎上野広小路本牧亭

◎費用 一舞台二十分まで一万円 三十分まで二万円(三十分を限度とします)

◎別に床世話料として一人千円

◎師匠に対する謝礼は出演者各自による

出演希望の方は、大至急、演目・所用時間等を事務局までお申しこみ下さい。

昨年6月から受講中の第41期生は、素八、駒之助、弥乃太夫各講師の指導のもと、稽古に余念がありません。昭和21年度第一期生から現役までが一堂に会する年一度の発表会です。皆様どなたでもお誘い合せ御来場下さい。(入場無料)

〈寄贈〉

野澤 吉平師 忠臣蔵・伊賀越等オーブン

五月書房様 テープ 多敷

「へっ ちうしんぐらぁ

なんだそれ?」という方に

ピッタリの忠臣蔵です

芸術祭参加公演本プロ・仮

名手本忠臣蔵プログラム・

切符等印刷 一式

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館様

演劇博物館資料ものがたり

義太夫漬

け

松橋正文

落語の「寝床」に、旦那藝の義太夫を聞かされて「可愛相なのは下駄屋の隠居さ。「柳」の木遣りで調子が上るでしょ。へ轟く音ぞ勇ましやという所で、キョッと腰がぬけた切り三年になる。その晩、大変な発熱で、博士に診て貰ったら、義太熟だという」と云う探りがある。この所、小生は、大分違った意味の、義太熟に罹って些か重篤の傾きがある。義太夫節が面白くて困っている。文楽を聴きに行っても、人形より太夫三味線の方に重点が向いて了う。義太夫節に少々は理解が深まって来たのか、聴く度に新しい発見に恵まれるのも幸せの一つであろうし、また聴き度くなる原因にもなつて、止め処がない。

都度信州の山奥から、車を駆って上京するのだから、何ともハヤ物好き千萬と自分でも思うのだから、人様が呆れ返るのも無理はない。とんだ義太夫節漬けー義太漬けの今日此頃である。精を出して出かけるのが協会の編集部の中に止り、義太漬けの顛末を書けとの御注文を頂くに及んだ次第である。

十月十五日(土)午後、横浜市教育会館で「人間国宝越路、燕三を聴く会」に出かける。前座は千歳、燕二郎で珍らしい「芋源氏」。語り出しが、降る雪の音聞く程に静かなりと

ある。近松の筆には恐れ入るばかりである。

越路、燕三は「沼津」。情を語る義太夫節の真髓とも云うべき演奏。元気にまかせての語り口ではないが、穏当に平作が、そして十兵衛が目の前に浮んでくる。情にほだされて、いつか涙が湧いて来る。平作がヨレヨレにやつれた雲助ではなく、分別もあり情理も弁えた人柄、そして十兵衛を追う時の判断の速かさ正しさが、無理なく伝って来る。結構なものも聴いたし、素浄瑠璃の好きが極まった。

返えず刀で、同日夜の本牧亭の「越道喜寿祝い一門会」に出た。「菅原」の三段目である。越若、越孝を始めとして、これだけの若手を育成したほかに、歌舞伎の竹本のホープ葵太夫に稽古をつけ育てた等々功績は大変なものである。嬉しいのは、越若、越孝の近年の著しい上達である。声に伸びが出て、迫力を増して来たことである。段切は、越道、重輝なら、何も申すこと無し。堪能。

越えて十月二十日(木)、本牧亭での藝術祭参加の演奏会。朝重、寛八の「鮎屋」と駒之助、重輝、悠美で「神崎揚屋」、目下脂が乗っている盛りのお太夫に、これだけの弦だから悪からう筈はないが、ブレッシャーが掛つていたのでとは悪推量も少々。場内が静まりかえ

って、緊迫感が漲り、よい雰囲気だった。同日、引続き七時から、若手の天地会。絃の実績のある土佐恵、土佐子、綾一以外は、どうもお三味線の重庄に参っていたみたいで、語る方は仲々度胸よく活発なのと好対照的だった。演目は「太十」。実に好企画。

二十一日(金)、東西若手交流会。関西方は、殆ど東都初御目見得の由。こちらの若手も仲々のものと思つていたが、関西方もどうしてどうして大したもの。掛合には有利な「車曳き」で威勢のよい所を示して結構だった。

よかったのは、越京、寛也の「裏門」。東西の元氣一杯の若手の熱演で気味が良かった。少々のカス撥くらい怖めず臆せず、これが修業数年の人とは！正に後生畏る可し。先輩連にもよい刺戟となつて欲しいものである。

月が替つて十一月一日(火)夜は、銀座ガスホールで「朝重リサイタル」の復活。挨拶で朝重が、師重造の追憶頌徳、上演する四段目を病後の土佐廣に稽古をして貰ったこと、リサイタルの継続に協力して貰った亡親友への謝辞を奇麗な言葉で述べた。目下の日本語の乱れに義太夫が一役買えそうな気がした。出し物は重輝の弦で判官切腹。両弟子の好演で、地下で重造も瞑目されるであろう。

二日(水)は、土佐廣一門の「竹本土佐廣とごむ会」。しかも高齢で病魔を克服されての舞台馴しに自身で野崎の久作を受持つというお芽出度い会合。茅場町の証券会館ホールである。土佐廣が長老で、人間国宝なのだから、師と仰ぐ人の多いのは驚くには当らぬかも知

れないが、瞠目する出演者の数で、嬉しいことに皆が師の恢復を心底喜んでるのが手に取る様に見えた事である。内容充実して、四時間に垂々とする会合も、看板通り「和」んで打出したのは結構だった。

これだけ続けて打込んだのは、希有だが、どの会も入りが良く、本牧では「お膝送り」が出る程で、義太夫も満更ではないと心強く思えた。はっきり云えば、企画が良くて、関係者各位が努力すれば、人は呼べることを証明したと云える。出演していない役員関係者が顔を見せ、協力していたのは爽かだった。

これだけ人が呼べたのは義太夫界にも仲々の知恵者が居ると心強かったし、ますます好企画を出して、斯道の隆盛に資して欲しい。

これだけ「義太漬け」になっていると、よい趣味に耽溺できる身の幸せを果報と思い、老いを悔いているいとまも無い程である。

乗りかけた船、二十日、二十一日の定例会に行く計画を立てることにしよう。
文中敬称一切省略、御免下さる可く。

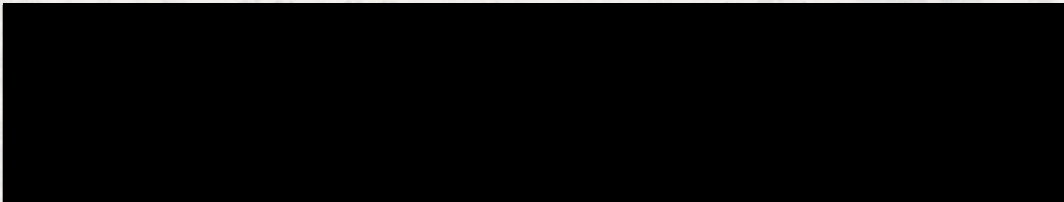
昭和六十三年十一月三日記
(特別会員 長野県諏訪郡原村在住)

新年会について

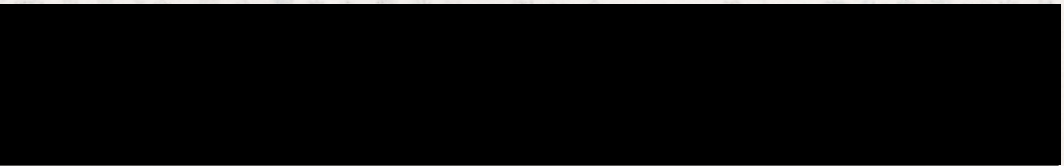


新年会(新春懇親会)につきましては目下検討中でございます。実施する場合は、一月末日か二月上旬の予定です。会員各位には追って御通知申し上げます。

新入会員御紹介



住所(住居表示等)変更



池田 弘一相談役 ラジオでも『忠臣蔵』

昨年11月21日、本牧亭で行なわれた「教師のための義太夫講習会」(文化庁助成)で「忠臣蔵は常識か?一忠臣蔵あれこれ」と題して講演された池田弘一相談役(神田外語大学助教授・日本芸能史)が、討入り前日の12月13日、ラジオ日本「よこはまホットナウ」にゲスト出演しました。テーマはもちろん「忠臣蔵」……だったのですが、おしゃべりが本職のアナウンサー氏が池田相談役の声の張りに注目したことから、その声は寄席の講釈(講談)の影響⇨寄席といえば本牧亭というところは……⇨本牧亭といえば毎月20・21日夜は義太夫協会の公演があって……⇨12月20日の公演には90才の人間国宝・土佐廣という可愛いオバアチャマが忠臣蔵七段目由良之助で出演⇨このラジオを聞いたといえ半額にしましょう。私が木戸を積みましょう。⇨「木戸を積む」の説明etcとポンポン話が弾んで、聞いている方がハラハラするほど(?)義太夫協会の宣伝にこれ務めて下さいました。おかげでチャリティは大入り、どうも有難うございました。

協会の動き

'88年9月より
'89年1月まで

- 9月20日 第17回邦楽実演家団体協議会 於芸団協会議室
- 20日 昭和63年度民間芸術等振興費補助金(青少年等芸術普及事業)交付申請書提出
- 20日 教師のための義太夫講習会 講師 吉川英史名誉会長 於本牧亭
- 9月21日 義太夫協会公演会 於本牧亭
- 9月26日 竹本講習適性検査 於国立劇場
- 10月8日 資料・記録部作業 於事務局
- 10月20日 昭和63年度文化庁芸術祭参加「女流義太夫演奏会」主催「義太夫協会 後援」女流義太夫本牧公演後援会 於本牧亭
- 20日 若手による『天地会』 於本牧亭 (4頁参照)
- 10月21日 第一回『東西若手交流会』大阪より住蝶・寛輔・寛也・雛子・友香・友由貴が出演 於本牧亭 (5頁参照)
- 10月26日 学校巡演 於神奈川学園
- 10月27日 公演部会 於事務局
- 10月31日 経理部会・常務理事会 於文明堂
- 11月10日 公演部会 於事務局
- 11月12日 資料・記録部作業 於事務局
- 11月17日 第9期竹本研修生・第4期鳴物研修生発表会 於国立劇場演芸場
- 11月20日 義太夫協会公演会 於本牧亭
- 11月21日 教師のための義太夫講習会(文化庁助成)講師 池田弘一相談役 於本牧亭
- 11月24日 昭和62年度決算報告・63年度事業計画等東京都教育庁に提出 於本牧亭
- 11月24日 義太夫節保存会昭和63年度文化財保存事業東京都補助金交付申請書提出 於事務局
- 11月25日 公演部会 於文明堂
- 25日 定例理事会 於文明堂
- 25日 日本放送協会昭和63年度助成金交付申請書提出 於事務局
- 12月2日 公演部会 於事務局
- 2日 昭和63年度民間芸術等振興費補助金交付決定通知(11月29日付) 於事務局
- 12月4日 学校巡演 於恩方第一小学校
- 12月16・17・18日 女流後継者育成事業 妙心寺・殿中刃傷研修(野澤喜左衛門師指導) 於国立劇場稽古場
- 12月20日 公演部会 於本牧亭楽屋

12月20日 第18回心身障害児のための特別公演(NHK厚生文化事業団共催) 於本牧亭

(皆さまのおかげで無事終了いたしました。結果は次号にて御報告申し上げます。御協力、本当に有難うございました。)

12月21日 昭和63年お名残公演 前日と二日にわたり「仮名手本忠臣蔵」を演奏した。 於本牧亭

89年1月1日 義太夫協会会報第44号発行

へ42号 記載もれ

88年6月17・18日 女流後継者育成事業 海

女研修(野澤喜左衛門師指導) 於国立劇場稽古場

計報

■豊竹勝司師(正会員) 63年8月21日逝去 (昭和61年3月 重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者。享年83歳) 御冥福をお祈りいたします。

編集後記

お年始状がわりの会報をお届けいたします。年度3号のノルマが果たせてホッとしております。年度3号のチャリティの集計が間に合わず、次号になりますことをお許し下さい。会報もワープロで打ってみようかと思案中です。(芸術祭のプログラムも実はワープロでした。若干残部あり。送料一七〇円分の切手をお送り下されば郵送致します。)本年もどうぞよろしく。